

# 令和2年度 江戸川区教育課題実践推進校



## 令和2年度 「読書科」実践推進報告書

探究的な学習としての読書科の推進と学校図書館の整備・活用

江戸川区立江戸川小学校

# 目次

はじめに 2

第1章 江戸川区独自教科「読書科」について…………… 4  
1 探究的な学習としての「読書科」

第2章 「読書科」の指導方法の習得のための研修…………… 7  
1 「読書科」の指導を行うために必要な指導方法の習得  
2 「読書科」の指導方法習得のための校内研修  
3 思考スキルについて

第3章 探究的な学習の場としての学校図書館の整備と活用……………17  
1 学校図書館法  
2 学校司書の役割  
3 江戸小サポーターズクラブ（学校応援団）による図書館整備

第4章 今年度の取組結果について……………21  
1 各調査の結果から  
2 本校の図書標準について

参考資料 本校の読書活動とホームページの活用 24

おわりに 27

## はじめに

本校は、平成29年改訂の学習指導要領全面実施に向け、令和2年2月に5年間の全体計画として「江戸川区立江戸川小学校グランドデザイン」（以下、「グランドデザイン」とする。）を策定しました。また、これに合わせて、本校の教育目標を「自他とともに認め合い、主体的に行動する人」としました。その背景として、予測困難な社会の中で生きる子供たちにとって、ますます多様性と主体性が求められると考えたからです。

これまで本校は、各教科等の基礎・基本の定着を重点とする学習を進めてまいりました。しかし、平成28年12月21日付の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」も示されているとおり、基礎・基本の学力となる知識・技能を習得することを中心とした学習では、10年後の社会で活躍することはできません。未来を切り拓いていくために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が一層重視されます。しかしながら、問題や課題の解決を通して育まれる思考力・判断力・表現力等の育成については十分に取り組めていない現状がありました。そこで、本校は思考力・判断力・表現力等の育成の要となる「総合的な学習の時間」と「読書科」の学習を充実させる必要があると考え、中でも江戸川区独自教科「読書科」に焦点をあて、その指導方法の習得と探究的な学習の場である学校図書館の整備を中心に、本校の教育活動を推進することにいたしました。

さて、本報告書は次の5項目で構成しています。

第一に、本報告書の結論である「読書科」のねらいを正しく理解して推進する必要があることについて述べています。

第二に、本校で行った指導方法に関わる研修について述べています。また、探究的な学習を通して育成する思考力・判断力・表現力等のうち、思考力の育成について本校が参考とした考え方について紹介しています。

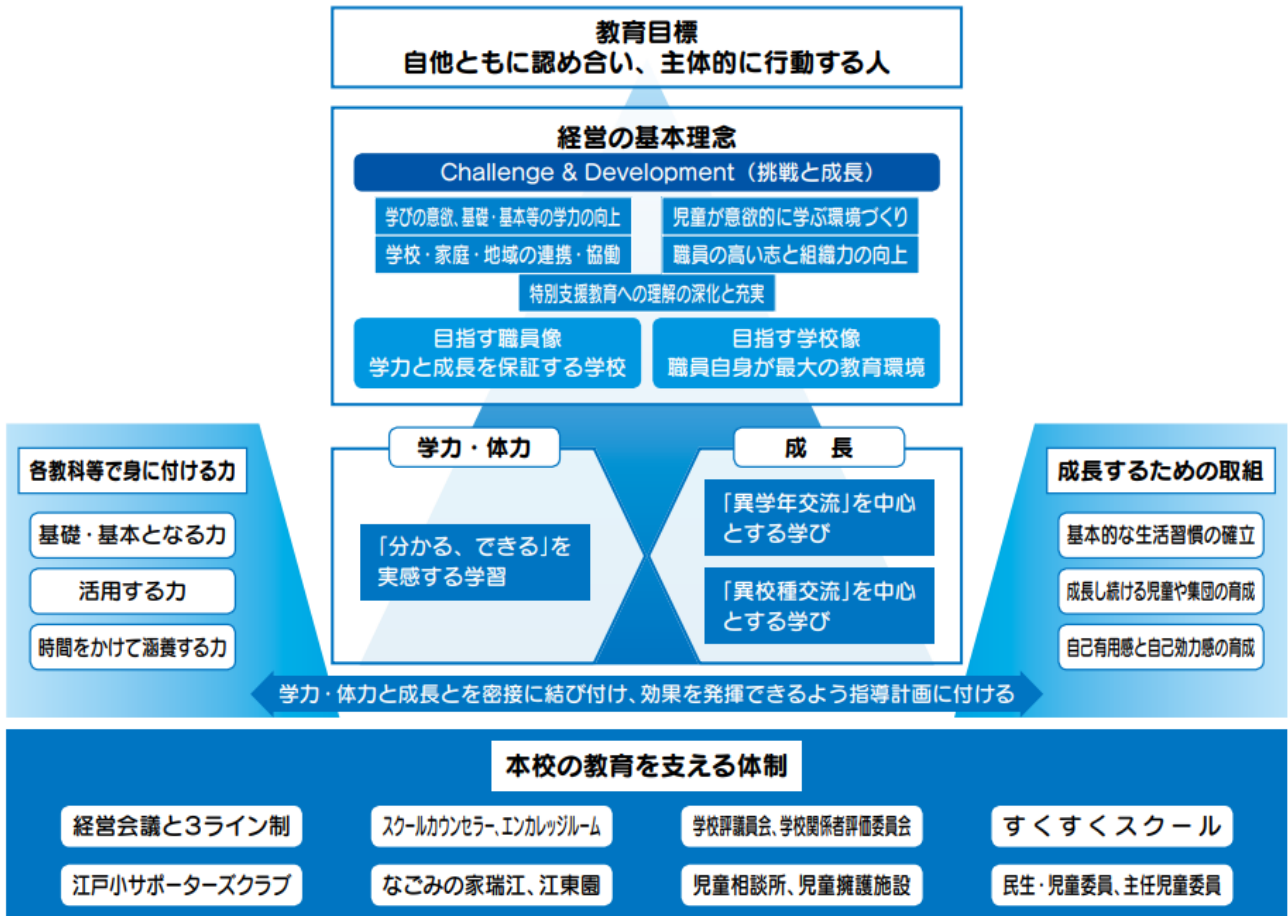
第三に、「読書科」をはじめ探究的な学習の場である学校図書館を取り上げ、学校司書の役割と学校図書館の整備について本校の取組について紹介しています。

第四に、各種調査の結果から今年度の取組結果についてまとめています。

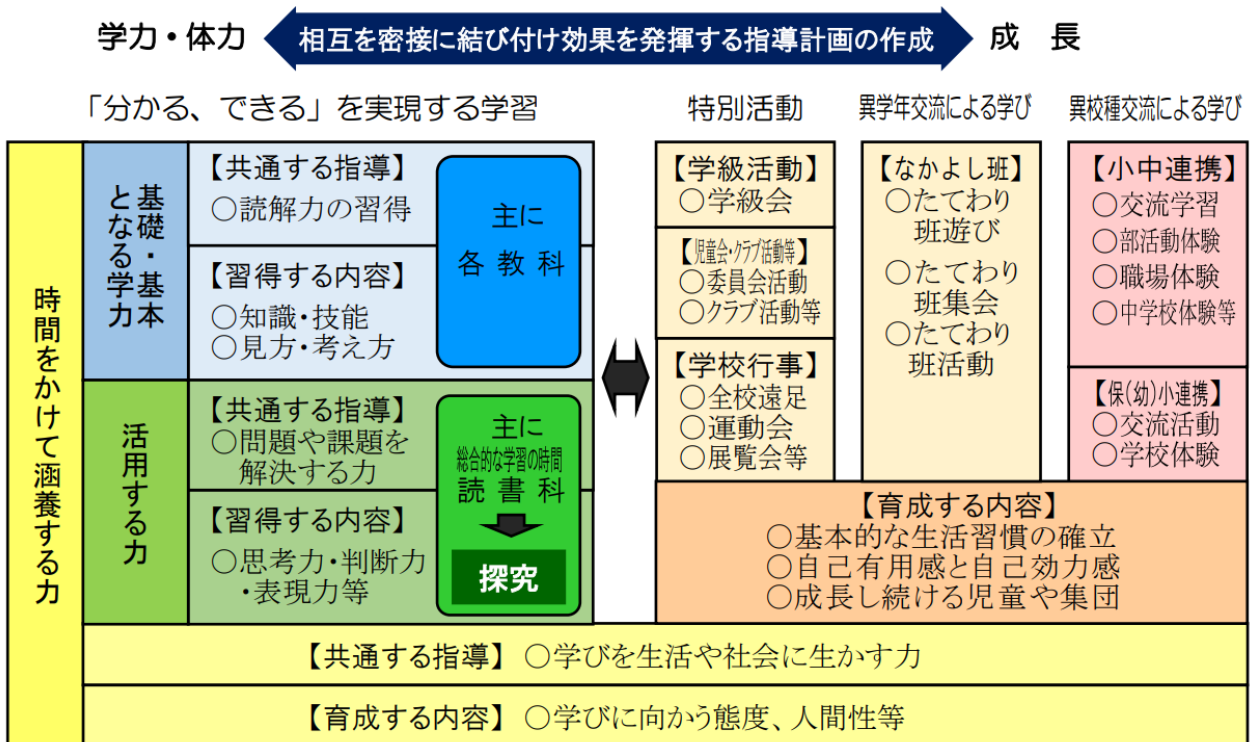
また、最後に本校の読書活動とホームページの活用について参考資料として掲載いたしました。

1年間の本校の教育実践が各校における探究的な学習として「読書科」を推進していくうえで参考になれば幸甚に存じます。

2025 年に向けた江戸川区立江戸川小学校グランドデザイン(概要)



本校児童が習得・身に付ける力と学習・学びの活動





# 第1章 江戸川区独自教科「読書科」について

本校は、令和2年度江戸川区教育課題実践推進校の指定を受け「読書科」を推進してきました。その実践を通して本校が導き出した結論は、次のとおりです。

- 第一に、探究的な学習としての「読書科」を正しく理解すること
- 第二に、「読書科」の学習指導にあたる教師が必要な指導方法を習得すること
- 第三に、探究的な学習の場として学校図書館を活用すること

第1章は、探究的な学習としての「読書科」を正しく理解するために、平成29年12月改訂の「読書科指導指針（以下、「指針」とする。）」に基づいて説明します。

## 1 探究的な学習としての「読書科」

### (1) 探究的な学習としての読書科

「読書科」という名称から、いわゆる読書や読書活動のための学習であると捉えられがちです。江戸川区の「読書科」は、いわゆる読書や読書活動に限定したものではありません。これについて、「指針」の「1 目標」には、次のとおり示されています。

読書における見方・考え方を働かせ、読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 読書から生きて働く知識を習得するとともに、資料の収集の仕方、記録の取り方を身に付けることができるようにする。
- (2) 問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに、自らの考えをまとめ・表現することができるようにする。
- (3) 読書及び読書を通じた探究的な学習の良さを認識し、主体的に取り組むとともに、社会の中で積極的に学び続けていこうとする態度を養う。

「指針」では、読書科の目標を「読書における見方や考え方を働かせ、読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とあります。

このことをまとめると次のようになります。

目指す資質・能力	生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力
育成する内容	①読書から生きて働く知識の習得 資料の収集の仕方、記録の取り方を身に付ける ②問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析して解決する 自らの考えをまとめ・表現する ③読書及び読書を通じた探究的な学習の良さを認識し、主体的に取り組む態度 社会の中で積極的に学び続けようとする態度
方法・手段	①読書における見方や考え方を働かせる ②読書を通じた探究的な学習に取り組む

ここで重要なことは「読書科」における「読書」の捉え方です。「読書科指導指針解説（以下、「同指針解説」とする。）」には、「読書科における読書とは、本や新聞、雑誌、何かを調べるために関係する資料を読むに加え、映像や言葉で発信されたものを見たり、読んだりすることも含んでいる」と示されています。

「読書科」における「読書」とは、本や新聞、雑誌等の文献資料を読むことのほかに、映像や言葉で発信されたものを見たり聞いたりすることが含まれます。つまり、本や図書資料のほかに映像や取材などで得た情報を補完的な資料として位置付け活用できるよう配慮しています。それは「読書科」の目標が生涯にわたって主体的に学び続ける資質能力の育成であるためです。本や図書資料では得がたい映像や取材等の情報を補完的な資料とすることで、探究的な学習の良さを児童生徒が学びを通して、より実感することができるからです。

さて、探究的な学習としての江戸川区独自教科である「読書科」の歴史は、平成21年度「読書改革プロジェクト」までさかのぼります。江戸川区の読書活動は「読む」時間の確保が中心でした。そのため児童生徒の読書量は増加しましたが、区の課題である児童生徒の活用力と探究力を育成が十分に組み合わせていませんでした。そこで、「読書改革プロジェクト」を立ち上げ、目的ある読書の取組を通して読書の幅を広げ、活用力と探究力を育成する学習への転換を図ることになりました。

平成23年12月には文部科学省教育課程特例校の指定を受け、平成24年度より総合的な学習の時間の一部を「読書科」に充て、読書を通じて生きていくために必要な様々な知識・能力を身に付けることをねらいとしました。その後、朝読書や読書活動の取組は進みましたが、課題である活用力や探究力の育成が十分ではありませんでした。そこで、平成29年12月「指針」が改訂され、読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力とその育成を明確し、「読書科」の学習内容についても改善・充実が図られました。

「読書科」のねらいは、読書を通して探究的な学習に取り組み、生涯にわたり積極的に学び続ける態度を育むことです。そのことを正しく理解しない限り、読書活動中心の取組から脱却することはできないと考えます。

## (2) 「読書科」と「総合的な学習の時間」を合わせた探究的な学習

本校は、探究的な学習である「読書科」と「総合的な学習の時間」を合わせた探究的な学習を設定しています。ただし、同じ探究的な学習である「読書科」と「総合的な学習の時間」の目標が異なります。すなわち、前者が読書を通して探究的な学習に取り組み生涯にわたり積極的に学び続ける態度を育むのに対して、後者は探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通してよりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成としています。そのため、それぞれの目標を達成できるよう図1に示す「総合的な学習の時間及び読書科」の全体計画を作成しました。また、「総合的な学習の時間」がない第1・2学年については、学習指導要領に定められた授業時数とは別に年35単位時間を設定し、「読書科」で身に付けた調べる学習の方法を第3学年から始まる「総合的な学習の時間」において活用できるよう配慮しました。

図1 令和2年度 総合的な学習の時間及び読書科 全体計画 江戸川区立江戸川小学校

学校教育の目標		自他ともに認め合い、主体的に行動する人			
<b>国が示す総合的な学習の時間の目標</b>					
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようになる。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>		<p>(教育課程特例校による区独自教科 読書科の目標)</p> <p>読書における見方・考え方を働かせ、読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 読書から生きて働く知識を習得するとともに、資料の収集の仕方、記録の取り方を身に付けることができるようにする。</p> <p>(2) 問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに、自らの考えをまとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 読書及び読書を通じた探究的な学習の良さを認識し、主体的に取り組むとともに、社会の中で積極的に学び続けていこうとする態度を養う。</p>			
<b>学校の総合的な学習の時間及び読書科の目標</b>					
<p>○ 読書科と総合的な学習を合わせて探究科として学習を行い、それぞれの見方・考え方を働かせ、次の資質・能力を育成する。</p> <p>○ 読書における見方・考え方を働かせ、読書を通じた探究的な学習を通して、生涯にわたって主体的に学び続けていくための資質・能力を育成する。</p> <p>○ 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。</p>					
<b>育てようとする資質や能力及び態度</b>					
<b>知識・技能</b>					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
自分で選んだ本を読み、その内容を理解するとともに、簡単な資料の収集の仕方や記録の取り方を身に付けることができるようにする。		地域の自然の素晴らしさやそれを地域の人々の工夫が分かる。		地域の環境の現状や環境を保全する人々の工夫や努力が分かる。	
		地域をよく知り、その内容を理解するとともに、目的に応じた資料の収集の仕方や記録の取り方を身に付けることができるようにする。		地域のよさと課題及びそれに携わる人々の願いが分かる。	
		情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。		地域の未来像と自分たちの生活との関わりが分かる。	
				情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	
<b>思考・判断・表現</b>					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
身近な生活の中からの疑問や自分の興味や関心からの課題を設定し、解決方法を考えたりしている。		身近な生活の中からの疑問に対して本や目的に応じた対象を決め、自分たちの身近なところから、情報を集めている。		身近な人や社会、自然に関する問題や地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しをもって追究している。	
身近な生活の中からの疑問の解決に向けて、除法を分析したり、問題状況における事実や関係を事象や分類したり数量などで客観的に比較することで特徴を見付けたりしている。		自分の考えを他に伝えることができたり、相手に応じてわかりやすくまとめ表現したりしている。		視点を明確にして、問題状況における事実や関係と整理した情報を関連付けたり多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	
				自分の考えを分かりやすくまとめ表現できるようにしたり、相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ表現したりしている。	
<b>主体的に学習に取り組む態度</b>					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
読書の良さが分かり、進んで本を読もうとするとともに、自分が見付けた疑問について、主体的に学んでいこうとしている。		課題の解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。		課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。	
		課題解決に向けて、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。		課題解決に向けて他者と協働して探究活動に取り組む、その大切さに気付いている。	
		自分のよさや自分にできることに気付いている。		探究活動を通して、自分の生活を見直し自分の特徴を理解しようとしている。	
		自分と異なる意見や考えがあることに気付き、相手の立場を理解する。		異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら、探究活動に取り組んでいく。	
		自分と社会とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。		探究活動を通して、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。	
<b>学習活動</b>					
<b>内容</b>		<b>学習対象</b>		<b>学習内容</b>	
第1学年		・本の楽しさを知り、本への興味を高める ・本などから興味にあるものを調べまとめる方法を知る		自分で選んだ本を読み、読書の良さが分かり進んで本を読もうとする態度 調べ学習に向けて探究の仕方	
第2学年		・いろいろなジャンルの本を読み、本への興味や関心を高める ・本などから興味にあるものを調べまとめる方法を知る		自分で選んだ本を読み、読書の良さが分かり進んで本を読もうとする態度 調べ学習に向けて探究の仕方	
第3学年		・好きなジャンルの本を読み、本への興味や関心を高める ・地域のよさや歴史の発見とそれを継承するための取組		自分で選んだ本を読み、読書の良さが分かり進んで本を読もうとする態度 地域の歴史や文化のもつ特徴とそれらを継承し文化を継承する取組	
第4学年		・好きなジャンルの本を読み、本への興味や関心を高める ・地域社会の幸福と福祉に取り組む人々の努力		自分で選んだ本を読み、読書の良さが分かり進んで本を読もうとする態度 様々な福祉活動とそれらを充実させていくための人々の思いと取組	
第5学年		・目的のある読書をしよう ・世界が抱える問題の解決に向けた取組		目的に応じた本を読み、読書の良さを実感し読書習慣を大切にする態度 持続可能な社会を実現するための取組と人々の思いと努力	
第6学年		・目的のある読書をしよう ・東京オリンピック・パラリンピックの理念とその取組		目的に応じた本を読み、読書の良さを実感し読書習慣を大切にする態度 オリンピック・パラリンピック精神とそれらを実現するための日本の取組	
<b>指導方法</b>					
<b>学習活動</b>		<b>指導方法</b>		<b>指導体制</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年、毎週火・金曜日に各15分程度の読書活動を設定する。</li> <li>第1・2学年は身近な自然、第3学年は地域、第4学年は福祉と健康、第5学年は環境、第6学年は国際理解を主なテーマとする。</li> <li>各学年で取り上げる内容と各教科等との関連を図りながら、指導計画に位置付けて学習活動を展開する。</li> <li>各学年とも、発表方法を工夫し成果を発表する機会を設ける。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>読書科との関連を図りながら、総合的な学習の時間と併せて探究学習の充実を図る。</li> <li>協働的な学習活動を充実させ、問題や課題を解決していく学習を通して活用する力を育成する。</li> <li>文献資料等の活用や様々な調査方法やまとめの仕方の学習を充実させる。</li> <li>言語活動や体験学習の充実、読解力の向上を重視し、各教科等の関連を図りながら指導する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>探究学習に必要な指導方法に係る研修を充実させる。</li> <li>地域人材等を活用した特別授業や体験学習を取り入れ、江戸小サポーターズクラブを効果的に運用する。</li> <li>学校司書を活用した公立図書館等との連携や学校図書館の充実を図る。</li> <li>ICTを活用した指導方法や内容について情報共有を行い、指導効果を発揮できる体制を強化する。</li> </ul>	
<b>学習の評価</b>					
				<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオ等を活用した評価を実施する。</li> <li>観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。</li> <li>指導と評価の一体化を充実させるとともに、個人内評価を重視する。</li> <li>学校関係者評価委員会における評価を実施する。</li> </ul>	

## 第2章 「読書科」の指導方法の習得のための研修

第2章は、「読書科」の学習を進めるうえで必要な指導方法を習得についての校内研修を中心に述べます。

### 1 「読書科」の指導を行うために必要な指導方法の習得

#### (1) 「読書科」の指導を支えるための指導方法の習得

探究的な学習を進めるためには、児童の興味や関心から発見される問題から学習課題を設定し、その課題を解決するための方法や手段等を考えて取り組まなくてはなりません。「指針」にもあるとおり、「読書科」における探究的な学習では、問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析することが重要です。そのため、「読書科」を指導する教師は、児童が主体的に取り組めるよう指導計画を作成し、学習活動を展開する必要があります。しかしながら、「読書科」における探究的な学習が、すべて児童任せの活動であったり、学習課題の解決につながらなかったりするものも少なくありません。その結果「読書科」の目標とはかけ離れてしまいます。

区外から異動が多い本校の実態を踏まえ、「読書科」のねらいに沿って児童が主体的に学習するには、「読書科」の指導に必要な指導技術を教師が習得することが重要です。そこで本校は、「読書科」の指導方法や技術の習得を中心とする研修を行い、並行して探究的な学習の要となる学校図書館の整備に取り組むことにしました。

#### (2) 校内研修の計画

本校は、平成29年度江戸川区立小中学校読書科推進委員会副委員長で、現在全国学校図書館協議会の藤田利江スーパーバイザーに講師を依頼し「読書科」の指導方法に関する研修を行いました。

今年度は、令和2年3月から5月までの臨時休業やその後の新型コロナウイルス感染症の拡大防止への対応があったため、図2のとおり研修内容を大幅に圧縮し、教師の指導方法や指導技術の習得を中心とした内容に変更しました。

図2 「読書科」に関する校内研修

実施年月日		実施様態	内容
第1回	令和2年10月30日	※提案授業 ワークショップ	講師と本校教員による提案授業 探究的な学習の推進に関する概要
第2回	令和2年11月27日	ワークショップ	問いづくりと百科事典の活用
第3回	令和2年12月16日	ワークショップ	学習の環境づくりと図書資料の活用

※提案授業とは、教師（T1）と講師（T2）によるチームティーチングで授業を行い、授業者以外の教師が授業を参観する。提案授業後、指導方法についての協議を行う。



## 2 「読書科」の指導方法習得のための校内研修

### (1) 第1回研修—知りたいことを見付けるための学習指導(提案授業・ワークショップ)

探究的な学習である「読書科」を進めるうえで大切なことは、児童自らが知りたいことを見付けることです。そのためには、児童の興味を引き出し、児童自身が知りたいことは何かを明確にする必要があります。第1回研修では児童自らが知りたいことを見付けるための学習指導として、思考ツールの一つである「太陽チャート」の活用と情報カードの記入に焦点を充て提案授業とワークショップを行いました。

#### ①思考ツール「太陽チャート」の活用

「太陽チャート」とは、「指針」解説において示されている思考ツールの一つです。具体的には図2に示すもので、真ん中の円にテーマを書き、その周囲の一つずつの円に疑問を書きます。そうすることで、テーマに対する疑問が明確となり、調べる内容をはっきりさせることができます。

#### ②情報カードへの記入

「太陽チャート」で明らかになった疑問について、図鑑や百科事典などを使い、一つずつ調べ答えを見付けていきます。そして、見付け出した答えをそのまま抜き出し、あらかじめ用意した情報カード(本校では「そのままカード」と呼び、以下「そのままカード」とする。)に記入させます。

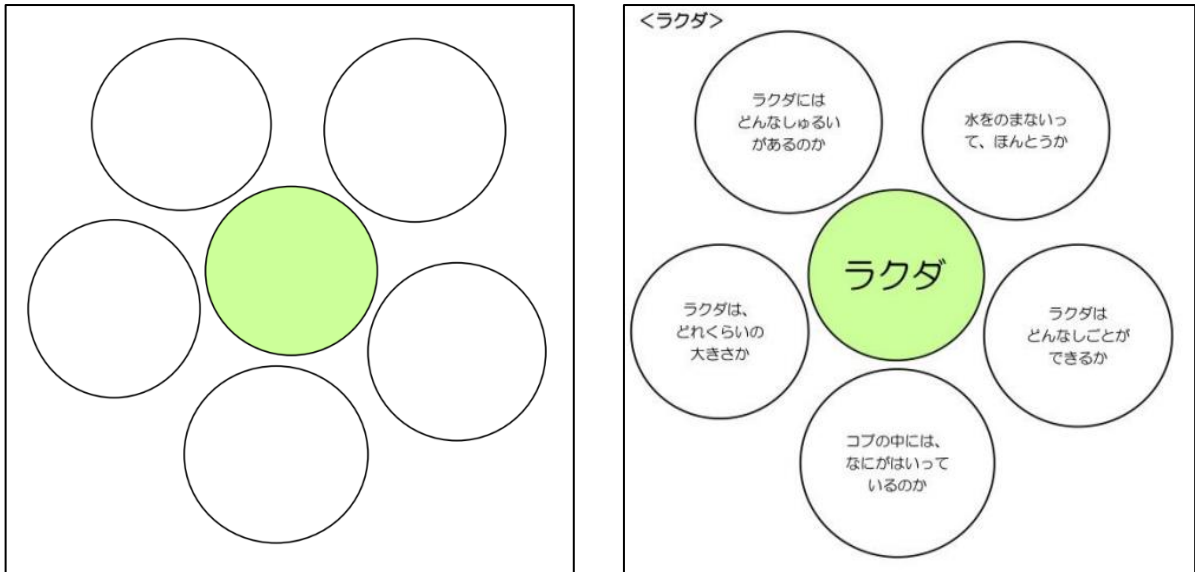
これらの取組で大切なことは、「太陽チャート」などの思考ツールを使い、児童自らがテーマに対して具体的な疑問を見付け出し、図鑑や百科事典など本をしっかりと読ませて疑問を解決させることにあります。探究的な学習を進めるうえで解決できない疑問が増えれば増えるほど、学習者である児童の意欲は低下していきます。しかし、疑問に対して本を使って答えが明確になればなるほど、疑問が解決できることが実感でき学習意欲の向上につながられます。



太陽チャートの活用についての協議から

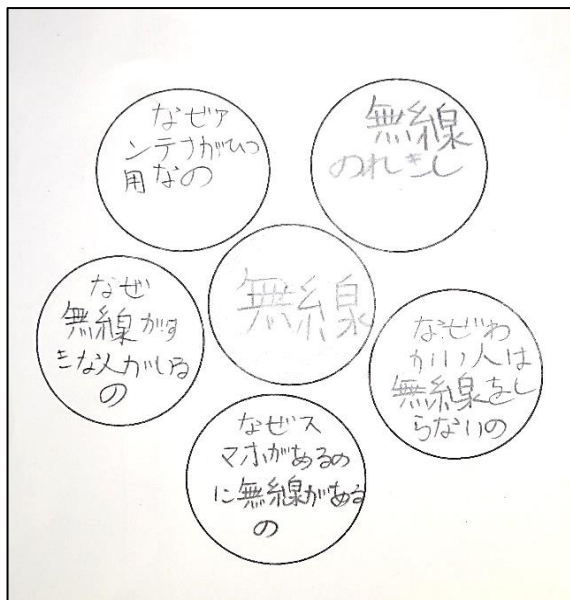
「太陽チャート」や「そのままカード」は、学習のねらいを達成できるように活用します。また、本を使って疑問を解決できることを実感させる学習では、学校図書館の配架本を使い、答えを見つけ出せるよう、指導する教師と学校司書が相談して入念に準備することが大切です。児童に任せっぱなしにならないよう注意します。

図3 思考ツール 太陽チャートの活用



児童用読書科ノートから抜粋

指導用読書科ノートから抜粋



本校児童が読書科で作成した太陽チャート

**太陽チャートの目的**  
 児童が知りたいことを具体的に指導するために使う思考ツールの一つです。  
 太陽チャートを作成する目的は、テーマに対する疑問を明確にし、調べる内容をはっきりさせることです。  
 5つの疑問について本を使って調べ答えを見つけていきます。

図4 情報カード「そのままカード」の活用

<そのままカード>

知りたいこと	コブの中には、なにがはいっているのか？
しらべたこと	「しぼうという、えいようのタンクなんだ。」
本	なぜシマウマはシマシマなの？

読書科ノート(指導用)から抜粋

**そのままカードの使い方**  
 1つの疑問(知りたいこと)に対して、本から1つの答えを見つけ出し、抜き書きします。  
 本を使って疑問を解決することを実感させることが重要です。

## 第4学年 読書科 提案授業指導案

日時 令和2年10月30日(金)第5校時  
対象 第4学年

1 単元名  
調べる学習にチャレンジ（2時間扱い）

- 2 本時の目標
- ・児童自らが調べてみたいことについて、図書資料を使って調べることができる。
  - ・図書資料の見方や調べる学習の進め方を学び、調べたことを1枚の紙にまとめる。

3 本時の展開

展開	学習活動	T1(担任)の指導	T2(SLS)の支援
導入	①これまでの学習を振り返る	①今までに何かについて調べた体験を簡単に思い出させる (例) 動物、乗り物など	①「太陽チャート」を配布する
学習活動1	②学習のめあて「調べたいことを明らかにしよう」を知る	②学習のめあてを示す	
	③学習活動の進め方を知る		③パワーポイントを使い、本時の進め方を説明する教科の学習を関連しながら考えられるよう配慮する
	④「太陽チャート」に知りたいことについて記入する	④「太陽チャート」に記入できない児童に対して、これまでの学習を想起させた助言を行う	④ヒントとなるキーワードを提示する
	⑤「太陽チャート」に記入したことに関連する図書資料を探し分かったことを「そのままカード」に記入する	⑤知りたいことに関連した図書資料を探すよう指示する 机間指導を行い、図書資料の中から答えを見付けだすことができない場合は、他の疑問を考えるよう助言する	⑤図書資料を見付け出せない児童に対して助言する 机間指導を行い「そのままカード」に記入する際、「」の中に図書資料からの抜き書きした文を記入しているかについて確認する
	⑥「そのままカード」に記入したことを見て、自分の考えや思ったことを「思ったカード」に書く	⑥「そのままカード」に書いたことを見て、自分が考えたことや思ったことを書くよう指示する 机間指導を行い、分かったことに共感しながら、感想を引き出していく	⑥「思ったカード」の書き方の例を示す 机間指導を行い「思ったカード」に書けない児童に対して助言する
学習活動2	⑦「そのままカード」と「思ったカード」を台紙に貼り、そこに絵や図を書き入れてまとめる	⑦文字色や大きさを工夫させたり絵も入れたるように指示する	⑦台紙にまとめるための時間の目安を示す
まとめ	⑧完成した作品を発表し合う	⑧他児童の作品を見て、気付いたことを発表させる	

- 4 本時の評価
- ・図書資料で知りたいことを探すことができたか。
  - ・調べる学習の進め方を理解し、進んで取り組むことができたか。

## 「読書科ノート」の構成について

「読書科」の学習は、「総合的な学習の時間」と同様に教科書がありません。そのため、「指針」の一部改訂に合わせ、「読書科ノート」が作成されました。「読書科ノート」は基礎期、充実期、発展期のそれぞれに対応して編集され、教師用指導書もあります。「読書科ノート」を活用することで、児童生徒が探究的な学習に取り組むために必要な思考ツールを身に付けることが可能です。

学年	単 元	探究学習における学習のねらい	活用するツール (下線部:思考ツール)
1年	はじめてしつたことは、なに？	本を読み、知らなかったことを明らかにする	
	しりたいことをみつけようⅠ	疑問のつくりかたを理解する	
	しらべはかせになろうⅠ－①	調べる学習の進め方を理解する	そのままカード わかったカード
	くらべてみよう	二つのものの違いと共通点を見付け出す	<u>ベン図</u>
2年	しりたいことをみつけようⅡ	疑問を見付ける方法を理解する	<u>ペンタゴンチャート</u>
	そのままカードをかこう	調べたいことや知りたいことなどの書き方を身に付ける	そのままカード
	しらべはかせになろうⅡ－①	疑問の答えを見付け出し、時間内のまとめる	そのままカード
	なかまにわけよう	似たものを分ける方法を理解する	<u>Yチャート</u>
3年	たいようチャートをつくろう	疑問を考えるとき、各教科等で学習したことを思い出しながら考えることができる	<u>太陽チャート</u>
	つたえたいことをえらぼう	調べたメモを基に、どのように伝えるのかを考えることができる	しらべたメモ
	感そうカードを書こう	調べたことから、分かったことや気付いたことなどを簡素に書くことができる	感想カード
	わたしのしらべ学しゅうⅠ	「太陽チャート」や「そのままカード」、「感想カード」を使い、調べる学習をする	<u>太陽チャート</u> そのままカード 感想カード
4年	調べたいことと資料をみつけよう	調べたいことを見付け、それを調べるための本の見当を付ける	<u>ピッツァシート</u>
	調べたことを整理しよう	視点を考え、調べたことを整理する	<u>マトリクス表</u>
	まとめカードを書こう	「そのままカード」に書いた内容から要点をまとめる	そのままカード
	わたしの調べ学習Ⅱ	1つのテーマからイメージを膨らませ、そのテーマを調べる際に本の見当をつけられる	<u>ピッツァシート</u> <u>マトリクス表</u> そのままカード まとめカード 感想カード
5年	調べたいことを広げよう	一つのテーマから広がるイメージや言葉を図に書き込み考える方法を理解する	<u>ウェビング図</u>
	参考にした資料はどう書くの？	調べたときに使った資料の記録の仕方を知り、活用できる	
	メモをもとにまとめよう	メモを基に結果をまとめたり、テーマについて考えたりする	
	調べる学習にチャレンジ	学習したことを基に調べる学習を行い、まとめた作品に仕上げる	<u>太陽チャート</u> <u>ウェビング図</u> そのままカード まとめカード
6年	問題をつくろう	問題の作り方を理解する	<u>5W1Hシート</u>
	自分の考えをもと	「ピラミッドチャート」を使い、自分の考えを深めたりまとめたりする	<u>ピラミッドチャート</u>
	レポートにまとめよう	レポートの書き方を知り項目立てで作成する	
	調べる学習にチャレンジ	学習したことを基に調べる学習を行い、まとめた作品に仕上げる	



(2) 第2回研修—問いづくりと百科事典の活用（ワークショップ）

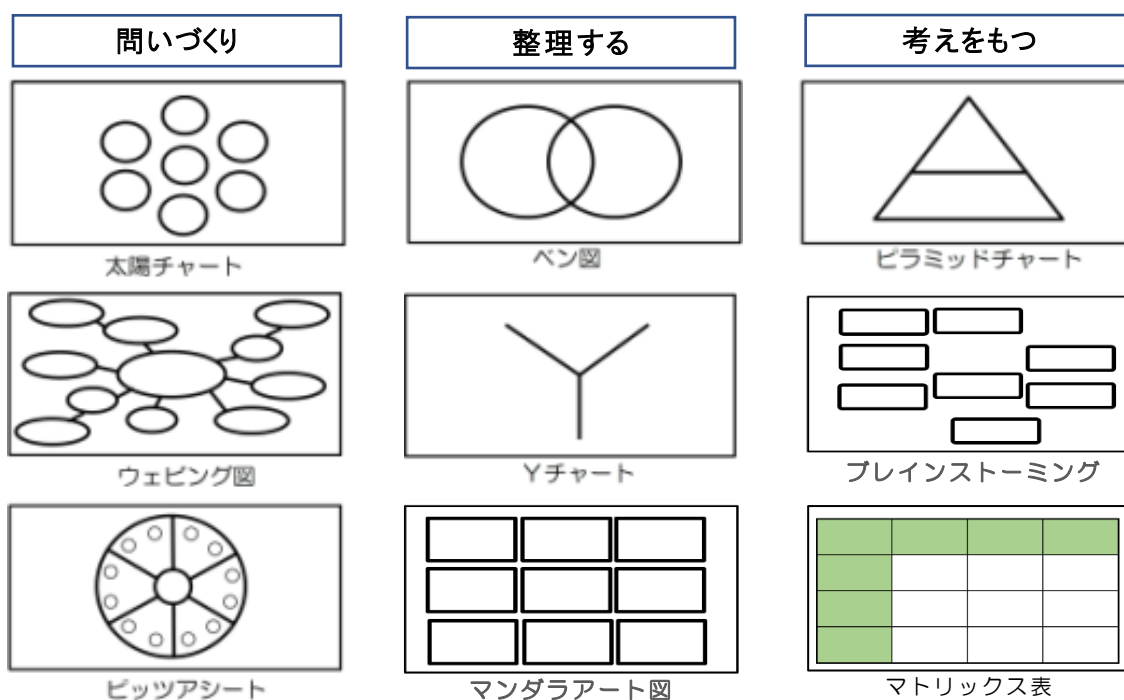
第2回研修は、問いをつくる様々な技法と百科事典の活用についてワークショップ形式で行いました。

①学習のテーマを考える

第1回研修では、探究的な学習としての「読書科」の指導を行ううえで、児童自らが知りたいことを見付けることの重要性を確認しました。第2回研修では、児童の興味を引き出し、児童自身が知りたいことは何かを明確にするために、思考ツールを活用して児童が調べたいこと、つまり学習のテーマ（問い）を明確にするための指導に焦点をあてました。

本研修では、「太陽チャート」や「ペンタゴンチャート」、「マンダラアート」などの思考ツールを取り上げ、児童自らが思考ツールを活用して学習のテーマを発見するための指導方法を取り上げました。

図5 主な思考ツールとその特徴



主な思考ツール	思考ツールの特徴
太陽チャート	大テーマから調べたいことを絞る
ウェビング図	1つのキーワードから連想を広げていき、考えを広げていく
ピッツアシート	テーマに対し、「国語、社会、理科…」などの視点で考える
ベン図	情報を2つに分けて書き込み、共通点などを見出す
Yチャート	3つに分けて書き込み、その分類の仕方について整理する
マトリックス表	項目ごとに情報を比較・分類し、まとめ比較する
マンダラアート図	テーマに対し、知りたいことや十進分類の番号を整理する
ピラミッドチャート	アイデアをより明確に、価値の高いものにする
ブレインストーミング	カードに考えを書き、さらに討論で考えをまとめる

## ② 百科事典を活用した探究的な学習

「同指針解説」では、情報を収集するための資料として百科事典等の図書資料を例示しています。児童は学習のテーマを発見するために様々な疑問を調べていきます。その調べる学習の過程で、どの学校図書館にも配架されている百科事典は有効な資料となります。特に「読書科」の基礎期では、問題の発見や情報収集の仕方やまとめ方など段階を追って学習する必要があります。本校の図書館には、小学生が活用できる百科事典として「ポプラディア」を配架しています。特に基礎期における情報の収集の仕方を学ぼうと、「ポプラディア」などの百科事典を使って情報を収集することを指導計画に位置付けています。研修では、「ポプラディア」の活用の仕方を中心にワークショップ形式で研修を行い、教師が実際に活用することでの注意点や指導方法を協議しました。

**ひっかくしてん  
百科事典を引いてみよう**

カメをかっています。カメのことを知りたいので図書館で調べましたが、百科事典にもくわしく書いてあることに気づきました。あなたも動物のことを百科事典を使って調べてみましょう。

1 百科事典の背文字を見て、次のことがらの巻に出ているかを書きましよう。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
あいう	えお	かきけ	こさ	し	すせだ	たひしり	じろのり	ふんはまみ	らりるれろわん	むめちやゆふ

ことごと	巻	ことごと	巻
オトシブミ		マガモ	
パンダ		ロバ	
ソウガメ		シャチ	

2 次のページの「調べることごと」から好きなことごとを百科事典で調べて、わかったことを書きましよう。

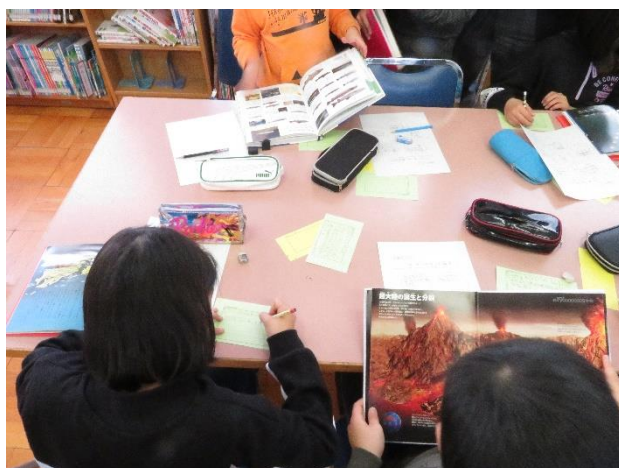
調べることごと	調べることごと	巻
大きさ		
すみか		
食べたこと		
その他わかったこと		
書名		

※「調べることごと」は、次のページをみましよう。

### 百科事典を使う

全体計画では、第3学年から百科事典を使って調べ方を身に付けるようにしています。百科事典の使い方を指導するうえで大切なポイントは次のとおりです。

- 百科事典の「背、つめ、柱」を知り使いこなせるようにする。
- 背 …百科事典の背表紙で調べたい事柄の巻を見付ける
- つめ…百科事典を開く小口側にあるしるしで、調べたい事柄を見付ける
- 柱 …見開きの頁の最初の「項目」の最初の4文字と、見開きのページの最後の「項目」の最初の4文字(言葉の範囲)をもとに調べたい事柄を見付ける



百科事典を使って調べる学習をしている様子

### (3) 第3回研修—学習の環境づくりと図書資料の活用（ワークショップ）

第3回研修は、前半を学習センターとしての学校図書館の役割と活用について、後半を児童が収集した情報のまとめ方についてワークショップ形式で行いました。

なお、学校図書館の役割については、第3章で述べます。

児童が収集した情報のまとめ方については、「読書科」に限らず、各教科等においても情報を収集・整理・分析したことを根拠に基づいて自分の考えをまとめます。

本校の過去3年間における「全国学力・学習状況調査」や「児童・生徒の学力の向上を図る調査」の結果では、文の要約や自分の考えをまとめることについて平均正答率を大きく下回っています。児童の多くが自分の考えをまとめることを苦手としていることが課題となっています。

「読書科」の基礎期では、児童自ら情報を整理・分析するために、思考ツールの一つである「ベン図」や「マトリクス表」を活用し、2つの情報を比べたり共通点を発見したりする学習を通して、思考ツールの使い方や抽象的な図に表現する方法を身に付けます。研修では、「ベン図」や「マトリクス表」などの思考ツールを活用した比較を行い、「そのままカード」を活用したまとめ（要約）の仕方についてワークショップ形式で研修を行いました。

#### ①「ベン図」や「マトリクス表」（P12図5を参照）を活用した比較の仕方について

「ベン図」を使うと、2つの対象物を比較することができます。具体的には、2つの対象物について共通することや違いを見付け出し、共通することを2つの円が交わったところに、各対象でしか見られない違いについてはそれぞれの円に記入します。これにより分かりやすく整理できます。また「マトリクス表」を使うと、比較する対象と観点を分け、違いと共通することを一覧にして表すことができます。その際、比較する対象について観pointsの分け方について内容が大きく異なります。そのため、何について明らかにしていくのかを考えて観点を決めます。

#### ②情報カードを活用したまとめ方について

本校では、本研修の講師を依頼した藤田利江スーパーバイザーが提唱されている「そのままカード」を情報カードとして活用しています。「そのままカード」とは、児童が図書資料で調べたことを「『課題』（または『かだい』）」「『調べたこと』（または『しらべたこと』）」「本（出典）」の3つの項目に分けて記入するカードです。

「そのままカード」は、児童が1つの項目について1枚記入するため、数多くの情報が蓄積されます。そこで「そのままカード」に記入した「課題」に対して、「調べたこと」の中で重要と思われるところ（「課題」に対する答え）に下線を引きます。

次に「そのままカード」の「課題」に注目し、共通したものとそれ以外に分類します。

最後に、調べたわかったことをまとめるカード（「まとめカード」）を用意し、分類した「そのままカード」を使い、下線を引いた語句を生かして文にまとめます。

「読書科」の基礎期では、児童は「そのままカード」を活用したまとめ方を身に付け、「読書科」以外の各教科等でも活用できるようにします。

### 3 思考スキルについて

#### (1) 「考える」を分析し方法論に特化した学習

「江戸川小学校が考える3つの学力」では、問題や課題の解決を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図るうえで探究的な学習は重要な役割を担うとしています。また、「同指針」には「問題を発見し、読書を通して集めた情報を整理・分析して解決するとともに、自らの考えをまとめ・表現することができるようにする」とあります。

「読書科」をはじめ各教科等では、自らの考えをまとめ・表現する力を身に付けるとともに、さらに活用を通してスパイラルに高めるための指導工夫が一層重要です。

そこで、本校が目にしたのが「関大初等部式思考力育成法」（以下、「思考力育成法」とする。）です。「思考力育成法」とは、関西大学初等部が開校当初から掲げる「思考力育成を教育の柱にした」学習を行うために、同校職員が実践研究を通してまとめた学習指導法です。中でも「考える」を分析し方法論に特化した学習は、本校が考える「問題や課題の解決を通して思考力・判断力・表現力等の育成」を図るうえで大きな示唆となりました。

#### (2) 「考える」を分析した方法論

児童は問題や課題の解決に取り組む過程において、問題点を明らかにしたり解決の糸口を見付けたりするために「考える」ところから始めます。しかし児童が「考える」ための資料を収集したところで、それをどのように整理・分析するかによって結論が変わってきます。

児童が「考える」の作業で止まってしまうのが整理・分析して「考える」ことであると同校では分析されています。

「思考力育成法」では、曖昧模糊とした「考える」活動を「思考スキル」という具体的な技術に分解し、各学年に応じて細分化した目標を設定します。そして、「考える」活動を体系的に指導できるようカリキュラムをつくりました。

同校は「考える」ことを考えるに特化した学習を全学年通じて行い、各教徒等の学習においても活用しています。

図6 思考スキルとその定義

思考スキル	定義
多面的にみる	多様な視点や観点にたって対象をみる
変化をとらえる	視点を定めて前後の違いをとらえる
順序立てる	視点に基づいて対象を並び替える
比較する	対象の相違点、共通点を見いだす
分類する	属性に従って複数のまとまり分ける
変換する	表現の形式(文・図・絵など)を変える
関係づける	学習事項同士つながりを示す
理由づける	意見や判断の理由を示す
見通す	自らの行為の影響を想定し、適切なものを選択する
抽象化する	事例からきまりや包括的な概念をつくる
焦点化する	重点を定め、注目する対象を決める
評価する	視点や観点をもち根拠に基づいて対象への意見を持つ
応用する	既習事項を用いて課題・問題を解決する
構造化する	順序や筋道をもとに部分同士を関係づける
推論する	根拠にもとづいて先や結果を予想する
具現化する	学習事項に対応した具体例を示す
広げてみる	物事についての意味やイメージ等をひろげる
要約する	必要な情報に絞って情報を単純・簡単にする
思考スキル	統合先
筋道立てる	(→“構造化する”に統合)
整理する	(→“分類する”、“順序立てる”に統合)
修正する	(→“評価する”に統合)
疑問を持つ	
吟味する	

抽象化された教科横断的な思考スキル(「関大初等部式思考力育成法」より抜粋)

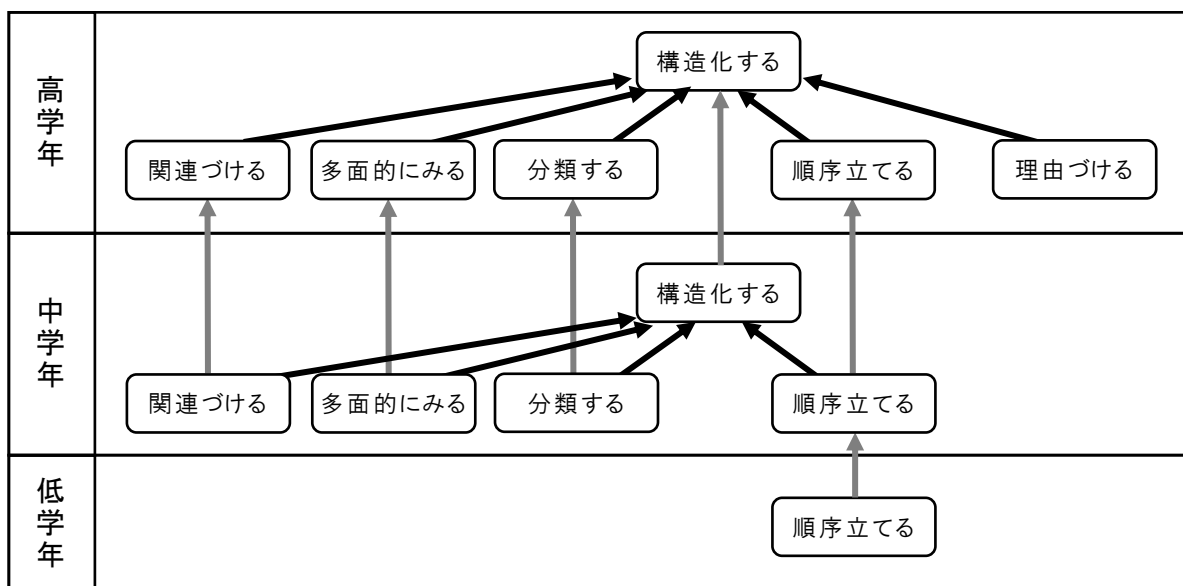


(3) 教科横断的な思考スキル同士の整理

同校では、前学習指導要領（平成20年3月）から抽出した思考スキル図6のように構造化する取組を試み、思考スキル同士の関係を整理しています。それぞれの思考スキルの関連を整理し明らかにすることで、低学年から中学年、高学年へと各学年で身に付ける思考スキルが高度化されます。その結果個々の事例から比較し共通点を見付けたり、共通点を土台にして個々の事例から得られたことを広げたり、さらにこれらの作業を通して得られた概念を抽象的な言葉に変換できたりすることが可能になります。その際、教師が行う指導・支援のポイントを明らかにし、さらにその後の展開について見通しをもって指導にあたり、6年間を通して体系的に指導を考えることができるようになります。

「思考力育成法」は、探究的な学習である「読書科」や「総合的な学習の時間」と各教科等を相互に関連付けた学習において参考となる事例であると言えます。

図7 「構造化する」思考スキルの関係図



「関大初等部式思考力育成法」より抜粋

## 第3章 探究的な学習の場としての学校図書館の整備と活用

第3章は、探究的な学習の場としての学校図書館を整備と活用を中心に述べるとともに、学校司書が果たす役割について説明します。

### 1 学校図書館法

#### (1) 学校図書館法の一部改正

学校図書館は、昭和28年に制定された「学校図書館法」(以下、「同法」とする。)に基づき、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に設置する学校の施設です。これを受け、多くの小中学校には図書館が設置されました。

平成9年6月「同法」の一部が改正され、学校図書館が教育課程の展開に寄与する学習情報センターとともに豊かな心を育む読書センターとしての役割が確認され、併せて司書教諭の設置についての努力義務と司書教諭講習について明記されました。

平成26年7月「同法」の一部が改正され、平成27年4月より施行されました。「同法」に改正にあたり文部科学省より発出された平成26年7月29日付の通知には、学校教育における学校図書館の役割を確認するとともに、学校図書館の利活用ができるよう、学校図書館の事務に従事する職員として学校司書を位置付けるとともにその配置に努め、司書教諭等と連携しながら学校図書館の機能向上の役割を果たすことができるよう改正するとの趣旨が示されています。

#### (2) 学校図書館法に定める運営とその利用者

「同法」第2条には、次の5項目にわたる学校図書館の運営について定めています。

- 1 図書館資料を収集し、児童又は生徒及び教員の利用に供すること
- 2 図書館資料の分類配列を適切にし、及びその目録を整備すること
- 3 読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を行うこと
- 4 図書資料の利用その他学校図書館の利用に関し、児童又は生徒に対し指導を行うこと
- 5 他の学校の学校図書館、図書館、博物館、公民館等と緊密に連絡し、及び協力すること

学校図書館の利用者とは、その学校で学ぶ児童や生徒とともに教員である教師も対象であることが明記されています。それは、学校図書館が児童生徒の健全な教養の育成のほか、教育課程の展開に寄与するために設置されているからです。

そのため、学校図書館の運営にあたっては、学校で学ぶ児童や生徒とともに教師が指導計画の作成や学習指導等において利用することを前提に資料や館内を整備する必要があります。

## 2 学校司書の役割

### (1) 司書教諭と学校司書の違いと役割

司書教諭と学校司書の役割について、「同法」には次のように規定しています。

図8 学校司書と司書教諭の役割

職	司書教諭	学校司書
根 拠	学校図書館法第5条	学校図書館法第6条
職 務	図書館運営の基本方針や計画を作成し、図書館を活用した学習指導の計画や実施等を担当する	図書資料の収集や整備・管理を行うとともに図書館利用者に対するサービスを提供する

学校司書は、司書教諭が作成した基本方針や計画のもと、図書資料の収集や整備・管理や利用者である児童生徒や教員に対する様々なサービスの提供をします。

一方、司書教諭は学校図書館を活用した学習や関連する指導を担当します。学校は、学校司書と司書教諭の職務の違いを理解して、児童や教師が利用できるよう学校図書館の運営にあたります。

### (2) 学校司書の配置と学校図書館整備について

今年度、本校に待望の学校司書が配置されました。しかし、配置期間が1年と決められているため、来年度の学校図書館の運営を見据えて計画を作成する必要がありました。

本校は、学校図書館を「読書センター」「学習センター」「情報センター」として機能させるために、次の方針を立てました。

本校の図書館整備の方針について
第1に、図書館の全蔵書数を確認するとともに不要な書籍等の破棄や整理を行う。
第2に、これまで制限してきた書籍の貸し出しや図書館の利用日時を改め、日常的に利用できる体制を整える。
第3に、蔵書する図書資料の電子データベース化に着手する。

第1については、各学級や生活科室等に分散していた蔵書を図書館に集約し、正確な蔵書数を把握することに取り組みました。また図書資料の充実を図るため、資料としての価値がない図書資料を廃棄し、新たな図書資料を購入しました。

第2については、生活指導上の理由から昨年度まで図書館の利用日時を限定していました。今年度学校司書と相談し、図書担当の教員及び児童による図書委員会を中心に、8月から図書館の貸し出し業務を、9月から図書館を原則毎日開館としました。

第3については、蔵書する図書資料の電子データベース化に着手しました。本校をはじめ区立小中学校の多くが、現在も台帳による管理を行っています。図書館の機能を十分に活用するためには、電子データベースによる管理と公立図書館等とインターネットによるネットワークシステムの構築が急務であると考えます。

図9では、学校司書配置後の図書館整備について、今年度の取組内容をまとめました。上記の第3の方針を除き、すべての取組を完了しました。

図9 学校司書配置後の学校図書館整備における具体的な取組内容

時期	取組方針	具体的な取組
4 月	図書館整備の方針を決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長、副校長、図書担当、学校司書の4者により整備方針を決定する</li> <li>○蔵書データの電子データベース化を開始する</li> </ul>
5 月	緊急事態宣言の解除を受け、学校司書の業務を再開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館の蔵書数を確認する</li> <li>○書架を整理する</li> <li>○ラベルを修正する</li> </ul>
6 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○書架を整理する</li> <li>○配架を修正する</li> <li>○ラベルを修正する</li> <li>○除籍図書の申請を手続きする</li> </ul>
7 月	図書館の利用への準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全学級を対象にオリエンテーションを行う</li> <li>○ラベルを修正する</li> <li>○図書の修理を行う</li> <li>○図書購入候補の選書支援を行う</li> </ul>
8 月	図書館整備ボランティアの体制を整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書架を整理する</li> <li>○ラベルを修正する</li> <li>○書架の見出し板を作成する</li> <li>○読書相談を行う</li> <li>○図書購入候補の選書支援を行う</li> <li>○図書委員会活動支援を開始する</li> <li>○サポーターズクラブ（ESP）を通してボランティアの募集を行う</li> </ul>
9 月	ボランティアによる図書館整備の開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新着図書を配架する</li> <li>○書架を整理する</li> <li>○ボランティアによるラベル修正を支援する</li> <li>○書架の見出し板を作成する</li> </ul>
10 月	ボランティアによる図書館整備 図書委員会の活動支援や読書相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題図書案内のポスターを作成する</li> <li>○読書相談を行う</li> <li>○書架を整理する</li> <li>○配架を修正する</li> <li>○ラベルを修正する</li> <li>○ボランティアによるラベル修正を支援する</li> <li>○書架の見出し板を作成する</li> </ul>
11 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学校図書館の現状に関する調査」を行う</li> <li>○新着図書を配架する</li> <li>○読書相談を行う</li> <li>○書架を整理する</li> <li>○配架を修正する</li> <li>○ラベルを修正する</li> <li>○ボランティアによるラベル修正を支援する</li> <li>○書架の見出し板を作成する</li> </ul>
12 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書相談を行う</li> <li>○書架を整理する</li> <li>○配架を修正する</li> <li>○ラベルを修正する</li> <li>○ボランティアによるラベル修正を支援する</li> <li>○書架の見出し板を作成する</li> </ul>
1 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館マップを作成する</li> <li>○書架を整理する</li> <li>○配架を修正する</li> <li>○ラベルを修正する</li> <li>○ボランティアによるラベル修正を支援する</li> </ul>
2 月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアによるラベル修正を支援する</li> </ul>
3 月	翌年度への引継ぎと準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○翌年度に受けた引継ぎ書を作成する</li> </ul>



### 3 江戸小サポーターズクラブ（学校応援団）による図書館整備

#### (1) 江戸小サポーターズクラブ（学校応援団）とは

学校応援団は、平成20年度に二之江第二小学校がモデル校として開始した江戸川区の事業です。その後、学校応援団を設置する学校が増え、平成23年度にはすべての小・中学校で実施されています。

学校応援団事業とは、学校・家庭・地域が協力して一緒に子どもたちとふれあいながら健やかな成長をサポートするボランティア活動です。本校は、平成23年度から学校応援団事業を開始しましたが、令和元年度より「江戸小サポーターズクラブ」と名称を変更し、より多くの方に江戸小ファンを増やすための取組を推進しています。

#### (2) 学校図書館整備ボランティアの募集

本校の図書館整備で最も困難を極めたのが日本十進分類法（NDC）に基づく図書ラベルの張替作業です。江戸小サポーターズクラブでボランティアを募り、学校司書を中心に8542冊の図書ラベルの張替作業に取り掛かりました。募集にあたっては、全家庭向けの募集案内を配布するとともに、ホームページにある江戸小サポーターズクラブ専用サイトでも呼びかけ、9名の方から応募がありました。



#### (3) 活動の様子

月2回の活動日を設け、学校司書や指導室より学校図書館スーパーバイザーにも来校を依頼し、図書ラベル貼替作業を進めました。

毎回9名のボランティアのうち6名前後が参加し、無理のない範囲で作業することを原則としました。また、作業する時間帯を決め、この時間帯に自由に来校して作業するようにしました。



図書ラベル貼り替え作業の様子



ホームページ内に江戸小サポーターズクラブ専用サイトを設け、活動内容や様子を掲載しています

図9 江戸小サポーターズクラブ専用サイト(学校ホームページから)

## 第4章 今年度の取組結果について

第4章は、各調査の結果等から今年度の取組状況について述べます。

### 1 各調査の結果から

#### (1) 学校評価

今年度から保護者や地域のほか、児童や教職員に対しても同じ項目でのアンケートを年2回実施し、読書に関わるアンケート結果は図10のとおりです。

学校評価の結果から、児童並びに保護者では「あてはまる」と回答した割合が増加しています。但し、保護者の回答に占める割合は低く「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせても50%には達していません。一方、「ややあてはまらない」と回答した割合では児童よりも保護者の方が高く、家庭での読書や本を使って調べる学習が浸透していないことが分かります。また、教職員の結果を見ると「ややあてはまる」と回答した割合が2倍強に増加していますが、「あてはまらない」と回答した割合もやや増加しています。

#### (2) 学校図書館の利用状況について

本校は、臨時休業明けから1月後に、次のとおり学校図書館の利用を開始しました。

図11において、4月及び5月の利用がないのは、緊急事態宣言を受け臨時休業としたためです。また6月及び7月については、図書館整備のため授業等の学習で使用する以外は開館及び貸出を中止しました。その後夏季休業日直前の8月に貸し出しを一時的に行いました。

本格的に図書館を開館させ、貸し出しを開始したのは9月からです。

また、貸出冊数については各学級文庫に対する貸し出しを除いています。

#### (3) 各学年の学校図書館利用状況

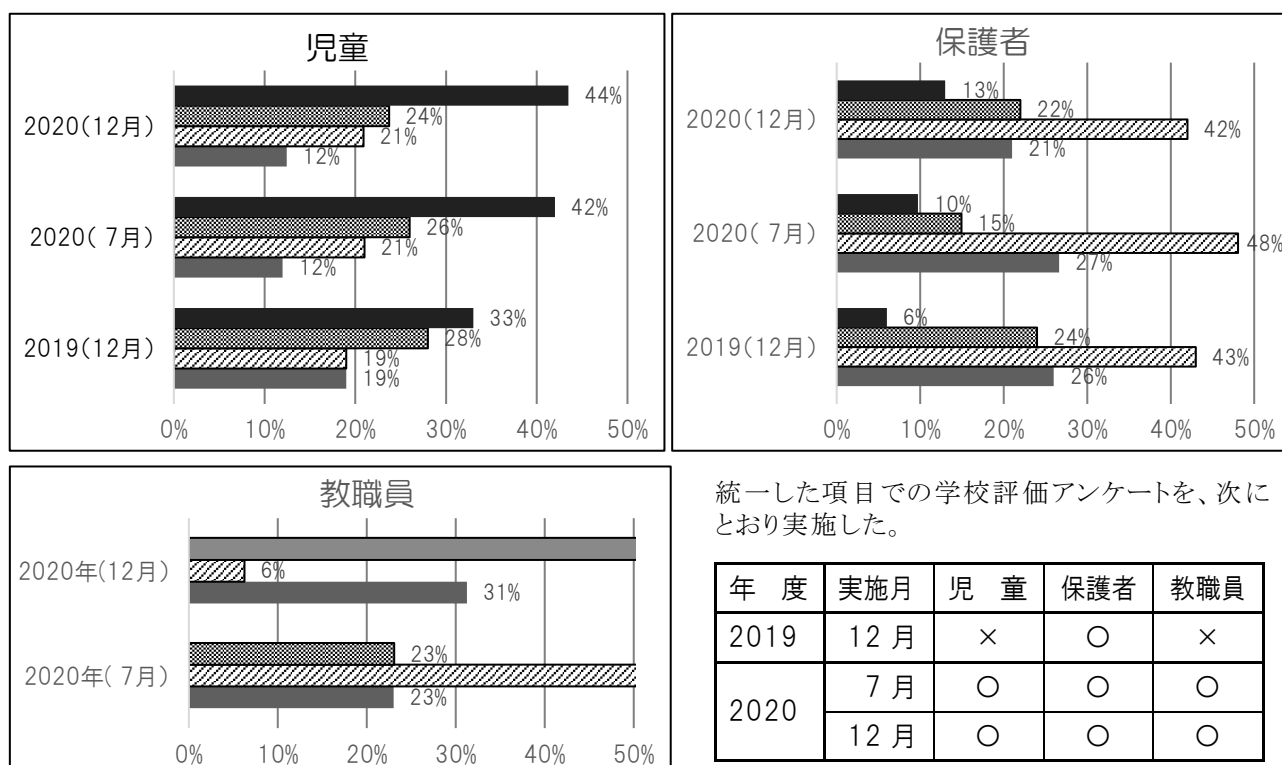
学校図書館の利用には、各教科等で利用する場合と中休みや昼休みなどの時間に児童が個別に利用する場合があります。

授業等の学習以外での本の貸し出しについては、児童による図書委員会の活動として行いました。その際、図書担当教員も在館し、本の貸し出しとともに図書館内での閲覧についても対応しました。また、学校司書が勤務する日については、学校司書が通常の業務として対応しました。

図12から、読書科や総合的な学習の時間での利用が多いことが分かります。次に国語での利用が多く、国語での調べる学習のほか、読書に関わることについての利用があります。

一方、社会科での利用は少なく、地図帳や資料集のほか自分で集めてきた資料のほか最新の情報をインターネットからダウンロードして活用する傾向が見られます。

図10 過去3年間における学校評価の結果



質問項目

児 童	本を読んだり、調べるときに使ったりしている。
保護者(教職員)	お子さん(児童)は、本をよく読むようになったり、手にとる機会が増えたりした。
評価項目	<span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:darkgrey;"></span> あてはまる <span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background: repeating-linear-gradient(45deg, transparent, transparent 2px, grey 2px, grey 4px);"></span> ややあてはまる <span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background: repeating-linear-gradient(-45deg, transparent, transparent 2px, grey 2px, grey 4px);"></span> ややあてはまらない <span style="display:inline-block; width:10px; height:10px; background-color:lightgrey;"></span> あてはまらない

図11 本校の図書館の開館と貸出状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
開 館	×	×	×	▲	▲	○	○	○	○	
貸 出	×	×	×	×	▲	○	○	○	○	
貸出冊数	0	0	0	0	324	318	292	219	394	1547

(凡例) ○は実施 ▲は一部実施 ×は実施せず

図12 各学年における学校図書館を活用した学習状況(6月～12月)

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
各教科	国 語	10	9	5	6	6	5	41
	社 会			0	2	0	2	4
	生 活	3	3					6
総合的な学習・読書科		15	15	19	19	17	19	104
計		28	27	32	27	23	26	163

## 2 本校の図書標準について

### (1) 学校図書館の整備状況

学校司書の配置を受け、図書館の蔵書確認や書架の整備を取り組みました。

本校の図書標準の達成については、図13のとおりです。

図13 本校の図書標準の達成状況

学校図書館法 図書標準の定める冊数	平成30年度末 蔵書冊数	令和元年度末 蔵書冊数	増加冊数			図書標準 達成状況
5,560 冊	8,120 冊	8,542 冊	422 冊			153.63%
日本十進分類法 による蔵書数	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術
	120 冊	173 冊	568 冊	478 冊	1005 冊	331 冊
	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	その他	計
	265 冊	435 冊	272 冊	3022 冊	1873 冊	8,542 冊

本校における図書標準の達成率は153.6%です。蔵書数の合計を見ると、十分に達成していると言えますが、日本十進分類法により蔵書数をみると「9 文学」の占める割合が35.4%を示しています。このことから、探究的な学習を進める際、「9 文学」を除く図書資料としての蔵書数が圧倒的に不足していることが分かります。また、図書資料の中には統計資料としての価値が低いものも含まれています。このことから、今後図書購入を計画的に取り組むとともに「情報センター」としての本校の図書館と区立図書館等とのネットワークを構築・充実させ、資料的価値が高い図書資料の入手等の取組が一層重要となります。

### (2) 区立図書館との連携状況

本校をはじめ区内小中学校の多くが、区立図書館との連携には取り組んでいるものの、インターネットによるネットワークサービスが構築されていません。そのため、現在も電話やファクシミリによるやり取りが中心なため、学校司書が配置されていない学校では、区立図書館と連携した取組が十分にできていない現状がみられます。

探究的な学習を進めるうえで、最新の情報を入手しやすいインターネットの活用は、ますます求められていきます。しかし、本などの図書資料はインターネットのような即時性はないものの、時間をかけて資料を吟味したうえで意見や主張がよくまとめられていたり、本を読む人のスピードに合わせて内容を理解したりすることができます。

今後、インターネット等の情報機器を活用した区立図書館との連携をはじめ、学校図書館の蔵書管理の電子データ化を進め、児童も教師も利用しやすい学校図書館の実現が期待されます。また、今こそ学校は、学校図書館が果たす役割をよく理解し、探究的な学習の場としての学校図書館の活用が求められています。

## 参考資料 本校の読書活動とホームページの活用

本校は探究的な学習としての「読書科」を「総合的な学習の時間」と併せ、それぞれの目標を達成できるよう全体計画を作成のうえ学習を進めています。

一方「読書科」の時数のうち23単位時間（1単位時間を45分とする）を読書の時間とし、本校では毎週火・金の昼休みの時間を「昼読書」とし、「生活時程表」に組み込んで実施しています。このほかに、児童を対象にした読書の啓発をはじめ、読書活動に関わる取組を次のとおり行いました。また、本校の取組についてはホームページに専用サイトを設け、学習や活動の様子を随時掲載しました。

### (1) 「読書の木」

今年度の読書週間は、令和2年10月19日（月）から11月16日（金）までの3週間を設定しました。これまで、期間内で読み終えた冊数やページ数を児童一人一人が目標を立てて行ってきましたが、今年度については各学級が100冊読破を目標とし、本を読み終えるごとに、色紙でつくった「読書の葉」に書名と著者名、出版社名、名前を記入し、模造紙代の大きさで準備した「読書の木」に掲示する方式に変更しました。「読書の葉」が増えることで学級の「読書の木」が生い茂るようになり、読書週間の取組を視覚的に分かるようにしました。また、職員用の「読書の木」も用意し、児童と共に全職員が参加しました。

図14 読書週間における各学年等の読破冊数

学年等	1年	2年	3年	4年	5年	6年	職員	計
読破冊数	212	228	122	106	87	147	48	950



学級で1本の「読書の木」にたくさんの葉を茂らせようとの呼びかけから始まりました。「読書の木」の葉が増えるたびに、読破した冊数が分かり、3週間で950冊を読破しました。思いきり本に親しむ機会として仕掛けたと取組ですが、翌月の図書館貸出した冊数が大きく伸びました。

### (2) 学級文庫の整備

本校は学校図書館のほかに、全学級に学級文庫を設けています。学級文庫には、各教科等の学習で使ったり、低学年には絵本などを配架したりして、児童が自由に本を使って調べたり読んだりできるようにしています。学級文庫は、教室内の棚に設置したものや移動式書庫など様々です。




### (3) 教員による読み聞かせ

今年度は、2学期より全教員による読み聞かせを行いました。以前は保護者の方によるボランティアで行っていましたが、新型コロナウイルス感染症への対応のため、教員による読み聞かせに切り替えました。校長、副校長、担任、専科、養護の各教員が、自分で選んだ本の読み聞かせを行います。また、担任は担当するクラス以外で読み聞かせを行うことにしました。

図15 今年度の「読み聞かせ」について

**【5年生】読み聞かせ**



2月4日(木)  
集会後に  
読み聞かせがありました。

1年生の担任の先生を  
スタンディングオベーションでお迎えし、  
読み聞かせがスタート。

有名な『3匹のこぶた』のお話。  
そのオオカミとぶたの立場が逆転する  
とてもおもしろい物語でした。

大きな笑いや驚きとともに、  
素敵な読み聞かせの時間となりました。

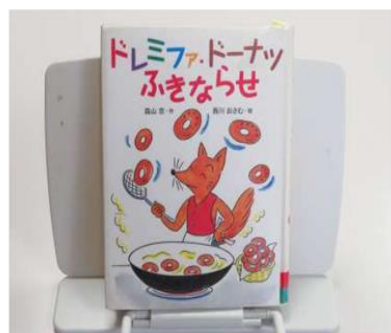
**読み聞かせの回数**

実施月	回数
11月	2
12月	2
1月	0
2月	4
3月	1
計	9

本校ホームページから

### (4) おはなし給食

本校では、読書週間などの機会を捉えて、本の中に登場する料理の一部を給食の献立として提供しています。給食時間の放送を使って料理を紹介したり学校ホームページで紹介したりしています。また、献立のサンプルケースのそばに、おはなし給食で取り上げた書籍を展示しています。



本校ホームページから

**おはなし給食「ドレミファ・ドーナツふきならせ」より**

今日はおはなし給食の日です。

「ドレミファ・ドーナツふきならせ」(森山京・作 西川おさむ・絵)より「ドレミファ・ドーナツ」を献立にしました。  
物語は、森の小学校にやってきた音楽のキツネ先生が、得意のお菓子作りします。今日の給食では、キツネ先生のドーナツを再現しました。

明日の献立は、子供たちからのリクエストが多かった「カレーライス」と「フルーツポンチ」です。今回「カレーライス」の具を牛肉にしました。とっても楽しみです。

本日の献立は「小松菜ペペロンチーノ」「鶏肉とジャガイモのスープ煮」「ドレミファ・ドーナツ」と「牛乳」でした。

令和2年度に実施した「おはなし給食」

10月 「ひみつのカレーライス」    11月 「がまくんのクッキー」  
 12月 「こまったさんのスパゲティミートソース」  
 1月 「ドレミファ・ドーナツ」  
 2月 「はらぺこあおむしからカップケーキ」  
 3月 「ばばあちゃんのむしぱん」

(5) ホームページに設けた専用サイト「読書科(区教育課題実践推進校)」

本サイトは、本校が江戸川区教育課題実践推進校であることを明示し、それに関わるお知らせや関連資料を掲示するとともに、「読書科」の学習の様子を掲載しています。

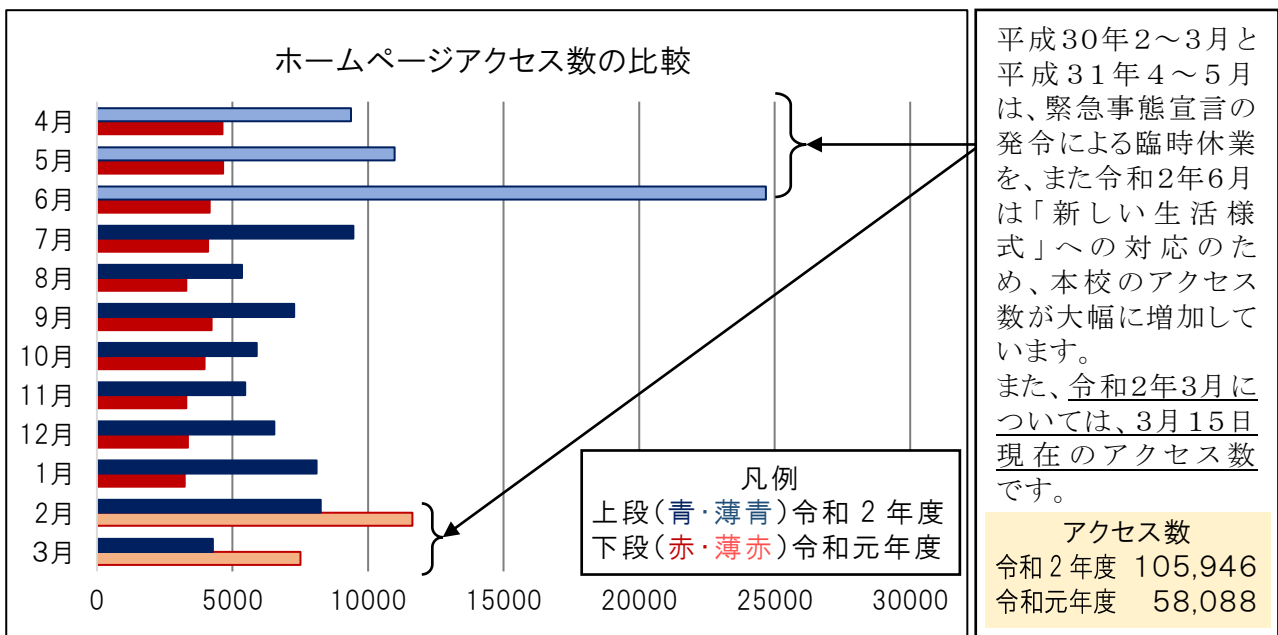
図16 江戸川小学校のホームページ

区教育課題実践推進校に関わる内容やお知らせを掲載しています。全体計画や学力の考え方もここからダウンロードできます

毎日学校日記で掲載している教育活動の中で、読書科や読書に関わるものを限定して掲載しています。



〈参考〉 ホームページアクセス数の推移



## おわりに

---

平成29年3月に「指針」が一部改訂され、探究的な学習としての「読書科」の指導がより鮮明となりました。今年度本校は江戸川区教育課題実践推進校の指定を受け、「読書科」を通して探究的な学習を行うことで、児童の思考力・判断力・表現力等の資質能力が高まることを検証し、その成果と課題を明らかにすることが使命でありました。

一方、昨年来からの新型コロナウイルス感染症が世界的な規模で拡大し、昨年3月から5月までの臨時休業、6月の分散・時差登校、その後も感染状況による学習活動の一部制限や延期・中止への対応に追われ、教育課題実践推進校としての使命を全うすることが困難な状況となりました。

このような状況下にあつて、本校は「読書科」を推進するための取組と探究的な学習の場としての学校図書館の整備に焦点をあて、1年間の教育実践を報告書としてまとめました。そのため、本報告書では本校の実践やそれに関わる結果について記載しています。この1年間の実践記録と結果のみの報告となりましたが、本校の取組が区内小中学校における実践の一助となれば幸いです。

結びに、コロナ禍での制約の中、本校をご指導いただきました全国学校図書館協議会の藤田利江スーパーバイザーをはじめ、江戸川区教育委員会指導室に深く感謝申し上げます。

江戸川区立江戸川小学校長 鈴木 薫

## 《参考文献》

- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な法則について」(答申) (2015) 中央教育審議会
- 小学校学習指導要領 (2017) 文部科学省
- 小学校学習指導要領解説「総則編」「総合的な学習の時間編」(2017) 文部科学省
- 江戸川区立小中学校読書科指導指針 (2017) 江戸川区教育委員会
- 江戸川区立小中学校読書科指導指針解説 (2017) 江戸川区教育委員会
- 平成 28・29 年度江戸川区立教育課題実践推進校研究実践報告書 江戸川区立清新ふたば小学校
- 平成 28・29 年度江戸川区立教育課題実践推進校研究実践報告書 江戸川区立松江第四中学校
- 藤田式「調べる学習」指導法 小学校編 (2017) 藤田利江著 子どもの未来社
- 藤田式「調べる学習」指導法 中学校編 (2018) 藤田利江著 子どもの未来社
- 読書科でつなげる学び方の学習  
江戸川区立松江小学校の実践 藤田利恵  
「学校図書館」2021 年 9 月号～12 月号に掲載 社団法人 全国学校図書館協議会
- こうすれば考える力がつく 中学校思考ツール(2014)  
田村学・黒土春夫著／滋賀大学教育学部附属中学校編 小学館
- 関大初等部式思考力育成法ガイドブック(2015) 関西大学初等部著 さくら社
- 思考ツールを使う授業－関大初等部式思考力育成法〈教材活用編〉  
関西大学初等部著 さくら社
- 司書教諭の実務マニュアル シオヤ先生の仕事術 (2017)  
塩谷京子著 明治図書
- 思考力・読解力アップの新空間  
学校図書館改造プロジェクト (2013) 井上一郎編著 明治図書
- 読書の時間と学校図書 (2015) 大串夏身監修 青弓社
- 調べ学習の実践と読書指導 (1914) 米谷茂則著 国土社
- 自己教育力を育てる調べ学習の指導－資料利用からレポートの書かせ方、発表まで－  
(1912) 米谷茂則著 千秋社
- 考えをまとめる・伝える図解の技術 (2011) 奥村隆一著 日経文庫
- 対比思考 最もシンプルで万能な頭の使い方 (2020)  
小柴大輔著 ダイアモンド社